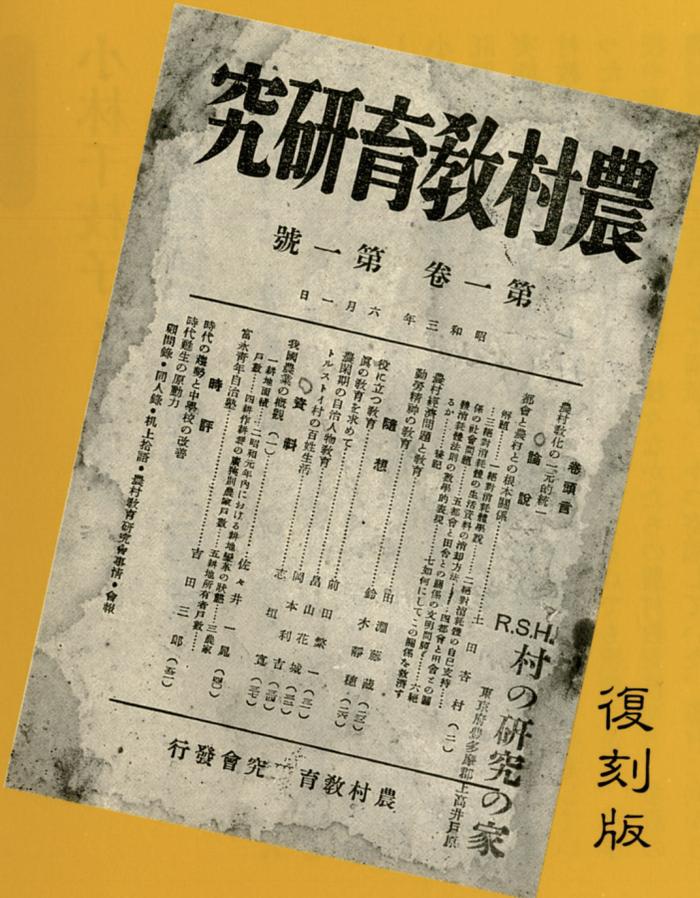


大西伍一主宰 [昭和三年六月〜昭和五年八月刊]

# 農村教育研究

小林千枝子監修・解説 [全三巻・別冊一]



復刻版

本誌は、日本教員組合啓明会の

代表的教育実践家、大西伍一を中心に

下中弥三郎、江渡狄嶺、小田内通敏、

柳田国男をはじめ全国の農村教育者、

農村運動者、農民自治会関係者達が

参加し、郷土研究や郷土教育を推進した

農村教育研究会の「研究雑誌」である。

昭和初期の教育問題をはじめ、当時の

政治・教育思想を知るために不可欠の資料。

また、郷土教育連盟設立前史資料としても

貴重なもの。なお、原本の所蔵機関は

わずかで全巻揃の所はない。

緑蔭書房



## 凡人史の省察

柳田國男

郷土文化といふ言葉がよく使はれるが一體それは何を意味してゐるか。些か空な氣持がしなくてもない。もしそれが抽象的な意味しか無いならば無駄なことである。單に文字を読むとか物識りが出来るとかいふやうな事ではいけない。ぜひ究めなければならぬのは社會觀、人生觀の變遷である。

同じ土地にも人が幾回となく生死したやうに、社會觀、人生觀も何回となく遷り變つた。その遷り變りの跡を知るには、各時代の生活様式や技術を知ることが大切である。然しそれは今日では客觀できぬから、種々の殘存物により、外部の諸形式を通して始めて知ることが出来る。殘存物の次にひそんでゐるもの、分り易くいへば「生き方」を探ることである。これによつて社會觀、人生觀が想像出来るし、人と人との關係が分る。而して私の今日までの研究では、人と人との關係は昔よりも餘程よくなつて來たと思はれる。

最近、三宅米吉博士の記念論文集に婚姻のことを書いた。婚姻觀の變遷について空想を交へずに書いたものである。今しきりに私が調べたいのは女の問題である。昔の農村婦人の氣質は今日とはは餘程違

小林千枝子

▼作新学院大学教授

## 『農村教育研究』の内容と意義

『農村教育研究』は農村教育研究会の「研究雑誌」であり、一九二八年六月から三〇年八月までに全二五冊発行された。同誌の編集を中心に担ったのは、日本教員組合啓明会の代表的教育実践家として活躍した大西伍一であった。誌面には下中弥三郎、土田杏村、野口援太郎、小田内通敏、柳田国男らが登場する。「農村次三男問題号」や「農村託児所号」「農村娯楽号」といった特集号もあり、無名の人々による実態報告が多数掲載されている。同誌は「農村自治の基礎としての農村教育研究」をめざして発行され、郷土研究や郷土教育を推進していた。郷土教育連盟設立直前の状況を伝える点でも重要である。小学校や実業補習学校等の教員、様々なたちの農村教育推進者、多数の農村青年たちが会員として講読し、かつ寄稿していた、農村に向かう息づかいの伝わってくる手づくりふうの雑誌である。農村教育問題を理解するのに不可欠であるだけでなく、心性史・社会史の研究においても貴重な情報を提供してくれる。

すいせんの言葉

中野 光

▼中央大学教授

## 教育史の血脈がここに

三〇年ほど前の私は『農村教育研究』という雑誌の一部を手にしたことはあっても、その全巻が揃って復刻出版されることは不可能に近

# 史料。研究者の期待に応える。

### 主な執筆者

編集兼発行者の大西伍一。思想家である江渡狄嶺や農民文学作家の加藤武雄。一九一〇〜二〇年代に教育運動に携わった下中弥三郎・野口援太郎・土田杏村・山本鼎。小田内通敏・小野武夫・小出満二といった地理学者や農学者。農民自治会関係者では栗原藤七郎・小山啓吾・鍵田研一・鈴木眞州男。教育の世紀社を設立母体とする池袋児童の村小学校関係者では志垣寛や峰地光重。民俗学の柳田国男や自由大学運動の山浦国久など。

### 特集号

農村社会調査号「第一巻第二号」



一九八〇年頃の太西伍一

い、と思つていた。たしか一九七〇年代のはじめに小田内通敏の研究者だつた故木本力氏とともに東京高井戸の大西伍一氏をおたずねしたことがあつたが、氏の手許にも全巻はなかつたし、関係者に聴いてもごく一部しか持つておられなかつた。戦前の民間教育運動の機関誌は、それがどんなに貴重なものであつても公的図書館のどこにも所蔵されていない場合が多かつた。それだけに、このたび、緑蔭書房から全巻が復刻出版されることは喜しく、感慨一入である。しかも、精力的にこの時期の教育について研究を積みかさねてこられた小林千枝子さんの精緻な解説論文がつけられての出版であることは、渴いた喉が潤うような気持ちである。

この雑誌が発行されていた一九二八(昭和三)年六月から一九三〇(昭和五)年八月にいたる時期の日本は「大正デモクラシー」といわれる歴史潮流は明らかに引き潮に転じ、いたるところに社会的矛盾が噴出していた。アメリカにはじまる世界資本主義の恐慌は日本にも及び、とくに農村の危機は深刻であつた。それは小作争議がこの時期に各地に起こつていたことを知つただけでも理解できる。今にして思うと、この雑誌の終刊は、あの「満州事変」の前夜にあたる時期でもあつた。

そのような歴史的状況の中で成立した農村教育研究会は危機にあえぐ農村の中に「失われてはならない教育」を見出そうとした、といえるのではないだろうか。この研究会に合流した人物は思想・信条・経歴において多様ではあつたが、おしなべて人間の教育に未来への希望を託し、農村にこそその実現の可能性がある、と期待したはずである。しかし、戦争と戦後の経済の高度成長は、そのような期待を無惨にも踏みにじつた、といわねばなるまい。

それから七〇年もの歳月が流れたいま、自然と人間の共生、人間における「食」と「農」の意義が改めて問われている。そのような時にこの雑誌が再び陽の目を見ることは、私たちの国にも教育に人間をとりもどそうとした豊かな歴史的遺産があつたことを確かめさせてくれるにちがいない。

# る教育・文化運動研究に待望の

農村次三男問題号「第一巻五・六号」  
郷土館号「第二巻第一号」  
郷土地理号「第二巻第四号」  
農村託児所号「第二巻第六号」  
国民高等学校運動号「第二巻第一〇号」  
郷土文化号「第二巻第一号」  
農村住宅問題号「第二巻第二号」  
農村娯楽号「第三巻第一号」  
村の研究「第三巻第六号」

## 主要論文

下中弥三郎や江渡狄嶺の農村問題を思想的にとらえた論稿、柳田国男の郷土研究論、小田内通敏の郷土調査論、志垣寛のロシア訪問記、岡本利吉の静岡における農村青年共同学校の報告、野口援太郎の学制改革案など。

## それ以外の記事

我国農業の概観(1)〜(3)「佐々井一晁」  
農村社会経済調査報告概要「東京帝国大学農学部 農経会」  
朝鮮部落調査の過程「小田内通敏」  
農村青年団員の生活調査(1)〜(2)  
農村教育の根本問題(1)〜(2)「鐘田研一」  
各地方の風俗習慣(1)〜(2)「村上辰午郎」  
南山部落の生活調べ「大西十七二」  
石川理紀之助翁の略伝「兒玉庄太郎」  
日本漬物総覧「平野照」  
秋田県下の農村教育「志垣寛」  
我が国に於ける国民高等学校運動史

# 中内敏夫

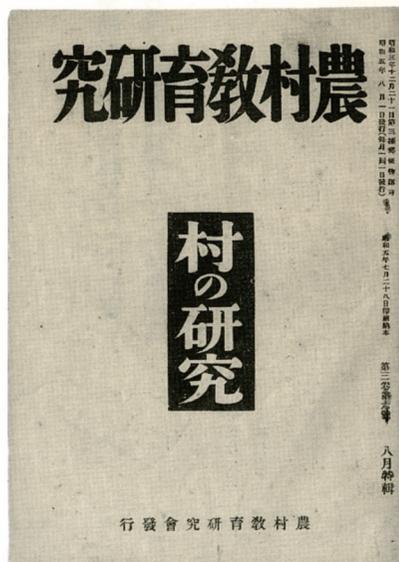
▼中京大学教授

## 『農村教育研究』復刻の意義

『農村教育研究』は、大西伍一が、下中弥三郎、山本鼎、江渡狄嶺、それに自由教育論者の野口援太郎（東京池袋児童の村小学校校長）らを顧問にして組織した農村教育研究会の研究雑誌として発刊した雑誌である。一九二八年六月創刊から三〇年八月まで全三五冊、会誌であるが編集の中心に一貫していたのは大西である。会は、「人類生活の本拠として農村そのものの教育的探求」を志すとうたっている。大西は、日本の最初の教員組合である日本教員組合啓明会の会員教師のころから下中弥三郎の影響下に育ち、同じ下中の組織した農民自治会にも下中系の活動家として参加した。当時の労働、文化、政治運動における下中の系譜は、無政府自治主義に属するものであり、国際共産党日本支部の動向を支持する各界のボルシェビストと運動の覇権を争い、アナ・ボル論争とよばれる論争をたびたびくりひろげた。

『農村教育研究』誌の内容が、すべて当時アナキズムとよばれていたものに統一されているわけではなく、会員の意識も多様なものがあった。しかし、同誌がこの政治・教育思想の根本資料のひとつであることにはちがいない。日本の思想と学問の世界は妙なところで、相手をたたこうときめるとアカ（ボル）とやればそれですむようなところがあつた。このことは今日でも変わらない。ところが一方、立場をかえたところでは、相手にアナのレッテルをはればそれで悪が証明されたように思いこむ論法がまかり通つてきた。これは、思想や学問が日本ではまだ自立しえてないことの現われで、残念というほかない。「アナキズム」とはなんであつたかを知る機会に、今回の復刻のしごとが役立つてもらいたいと思う。

# 昭和初期の農村社会における



### 『農村教育研究』関係年表

- 1919・10 下中弥三郎ら『啓明』創刊
- 1920・9 教員組合啓明会成立
- 1923・8 教育の世紀社結成
- 1924・4 大西伍一ら『蒼空』創刊
- 1925・10 池袋児童の村小学校開校
- 1925・8 自由大学協会設立
- 1926・4 『あをぞら』創刊
- 1926・4 農民自治会結成
- 1928・4 『農民自治』創刊
- 1928・4 啓明会解散
- 1930・11 大西伍一ら農村教育研究会結成し、『農村教育研究』創刊する
- 1930・11 郷土教育連盟結成
- 1930・11 『郷土』(のち『郷土教育』に改題)創刊

昭和初期の教育問題をはじめ、当時の政治・教育思想を知る上で貴重な機関誌の復刻版

# 農村教育研究

大西伍一主宰

昭和三年六月創刊〜昭和五年八月刊 [全25冊]

小林千枝子監修・解説

## 本書の構成

第1巻（一巻一号（昭和3年6月）〜一巻六号（昭和3年11月）全6冊）

第2巻（一巻七号（昭和3年12月）〜二巻九号（昭和4年9月）全10冊）

第3巻（二巻一〇号（昭和4年10月）〜三巻六号（昭和5年8月）全9冊）

別冊（解説十総目次十著者名・投稿者名索引十付録―農村教育研究会会員名簿）

全3巻・別冊1

A5判・上製クロス装・総約1,240頁

定価―本体価格57,000円＋税（分売不可）

ISBN4-89774-503-9 C3037 ¥57000E

関連図書のご案内

佐藤広美・高橋智編

戦前

## 教育科学運動史料

### 〈本書の構成〉

1. 『教育科学研究』 昭和14年9月〜16年4月刊（全17冊）

・ 解題（佐藤広美） 総目次 著者名索引

2. 『教材と児童学研究』 昭和9年5月〜同年8月刊（全4冊）

・ 解題（高橋 智） 総目次 著者名索引

・ 戦前教育科学運動関係研究文献目録

### 〈体裁〉

A5判・上製クロス装・総960頁・ケース入り

### 〈定価〉

本体価格36,000円＋税

ISBN4-89774-501-2 C3037 ¥32000E

緑蔭書房

173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1  
電話03 (3579) 5444 振替00140-8-56567

特約店